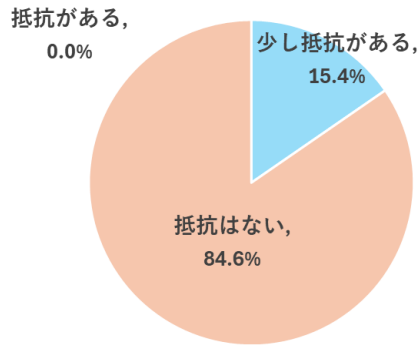


LGBTQ 教育セミナー【開催日：2024年9月10日(火)】 アンケート結果

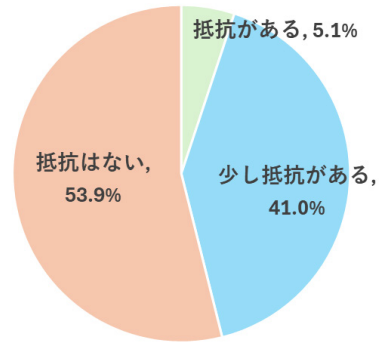
～多様性への理解を広げよう! LGBTQ 当事者の方との対話 [ウェビナー開催]～

セミナー参加者：72名(17社)、アンケート回答数：39(回収率54.2%)

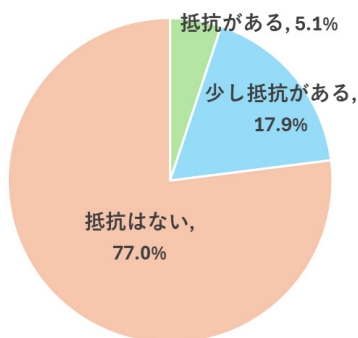
**Q1. 友人にセクシュアルマイノリティがいたら
抵抗がありますか? (回答数: 39)**



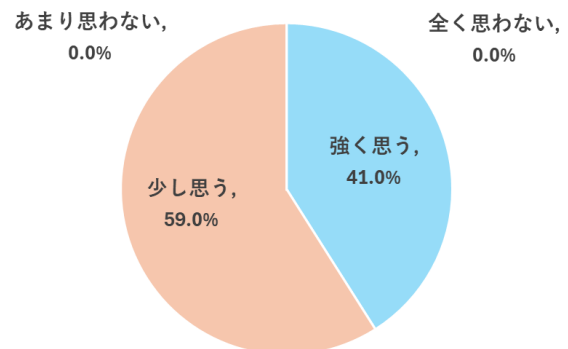
**Q2. 家族にセクシュアルマイノリティがいたら
抵抗がありますか? (回答数: 39)**



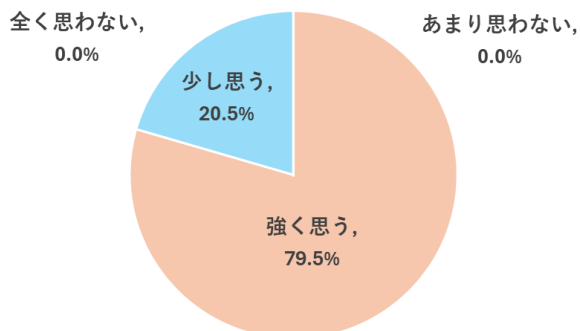
**Q3. 上司や部下にセクシュアルマイノリティがいたら
抵抗がありますか? (回答数: 39)**



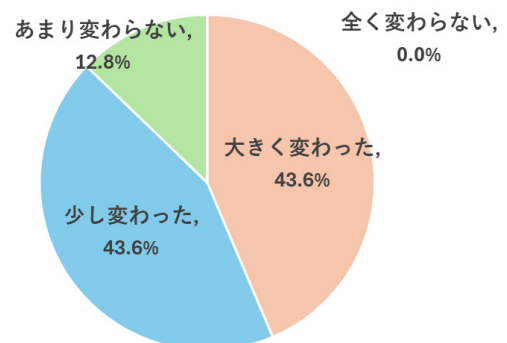
**Q4. 人の考え方が自分と違って、拒否せず
尊重できますか? (回答数: 39)**



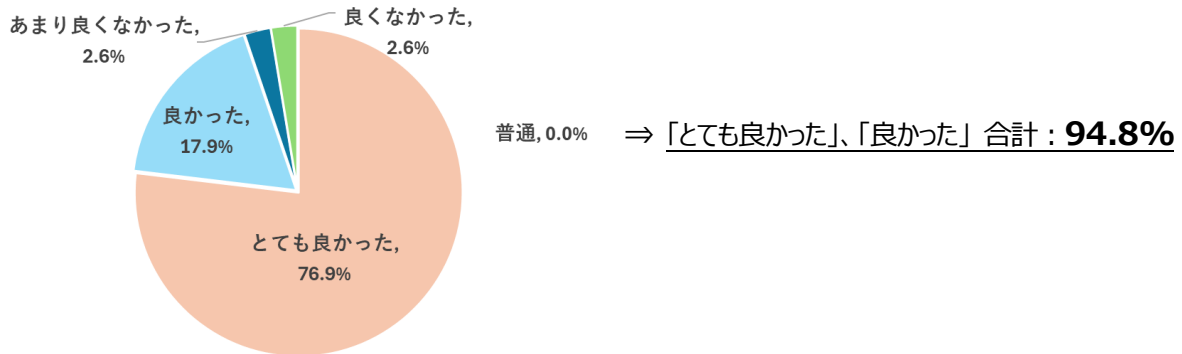
**Q5. 差別や偏見がなく多様性が認められる
社会にしたいと思いますか? (回答数: 39)**



**Q6. セミナーを受講する前と後で、意識の変化
はありましたか? (回答数: 39)**



Q7. セミナー全体の印象をお聞かせください。 (回答数: 39)



Q8. セミナーを受講した感想をご記入ください。 感想 (回答数: 35のうち一部を抜粋)

- 1) 自分も知らず知らずのうちに差別的な発言をしていたかもしれないとこの教育セミナーを受けて、考えるいいきっかけになりました。また、自分の子供がもし LGBTQ+ だった場合はどう行動すべきか、も考えるいいきっかけになりました。妻とも話し合い、自分の子供がそうだった場合に一番良い味方になれるよう話し合いたいと思いました。
- 2) 友人に、家族に、上司や部下にセクシュアルマイノリティがいたら との設問に対しては「少し抵抗あり」となります。なぜなら言葉選びや接し方は、考えながら行くだらうと思うので、理解ある寄り添いのできる人でありたいと思っはいますが、まだまだ出来ていないなと思っています。もっと当たり前に多様性を理解していきたいと思いました。
- 3) 企業側に求めていることという視点はこれまで無かったので勉強になりました。また、知識としてはあったので、周囲の人からカミングアウトされても受け入れられるだろうと思っていましたが、当事者（ご家族）のお話を聞いて、実際にその立場になったら頭で分かっている気持ちはついていけない状況もあるということが分かり、受け入れられない側の思いにも気づくことができました。貴重な機会をありがとうございました。
- 4) LGBTQ+ という言葉は知っているけども、内容については勉強する機会が無かったため、勉強になりました。また、多様性という言葉があるように、LGBTQ+ という区別するのではなく、色々な考え方、人たちがいるという認識を持つべきだと思いました。
- 5) Micro Aggression は難しい事象だと思うと同時に、自身も気づかぬうちに…ということがこれまでも絶対にあると思っしたので、少しずつでも意識付けていきたいです。また、自身も会社の中で ALLY となっているため、今回伺った「寄り添う」「助け合える存在」ということを心に留めて会社生活を過ごしていきます。そして採用担当者としても、全ての人に寄り添った“当たり前”を提供していこうと思いました。非常に有意義な時間となりました。貴重なお話をありがとうございました。
- 6) 実体験（経験）を聞くことにより LGBTQ に関しての情報（知識）が広がりました。カミングアウトされた時の接し方（態度）を変えない等は、自分の頭に入れておき色々な人が当たり前にいることを（グラデュエーション）意識するようにします。

7) 学生時代に学んだ内容とほぼ同じでした。また、もっと上の世代の人に受講してもらいたいと思いましたが、参加可能人数を増やしてほしいと思いました。より、相手の立場を尊重し対話を行うこと、無知でいることに警鐘を鳴らし、興味を持った人が信頼できる文献、URL にアクセスできるよう情報提供を行ってほしいです。

8) 主張はよく理解できましたし、私の元々の理解と大きく変わるものはありませんでした。辛い思いをされている方々が存在し、そのような方々に寄り添える社会であることはとても大切なことだと思います。

一方で、「どうしても寄り添うことができない」という考えの人たちも実際は多数おり（制度化が進まない本当の理由）、そのような人たちへの理解こそが最大の課題のほうです。今後は、そのような切り口のお話が聞けると嬉しいです。

9) 本日は貴重なお話ありがとうございました。これまであまり触れることがなかった実情についても知ることができ、とても良い経験になりました。

今回のセミナーを通して、「当事者がそもそも理解を望んでいるわけではなく、多様な考え方／生き方があることをまずは認識してほしい」、という想いを知り、今までの自分の意識は少しズレていたのだと感じました。いざというとき、LGBTQ の方に寄り添える存在になれるよう、まずは幅広い知識を身につけられるよう意識していこうと思います。

10) 「私はシスジェンダーで異性愛者であり、たまたまそれがマジョリティなだけである」という意識が強くなりました。カミングアウトという行為を私はこれまで無意識に行っていたと思いますが、それはマジョリティだからハードルが低かったのだと気づかされました。逆の立場を想像すると、まだまだハードルが高く不安な気持ちになりました。同時に、講演者の方々には実体験をお話して下さったことに非常に感謝しています。自分はグラデーションの中の 1 人であるということをお忘れず、家族や友人、会社のメンバー等と関わってまいります。

11) なんとなく考えていた部分が、実体験を拝聴させて頂くことで、よりリアルに身近に感じることができました。講師の皆様ありがとうございました。一企業として何から取り組みができるかを真剣に検討した結果、まずは同セミナーを全社員に受講して頂く事で『共通認識を持ち、理解を深める』事が大切ではないかと考え、セミナー受講に向けた段取りを行うよう労務担当者に働きかけました。社員やそのご家族がカミングアウトされた時にも企業または個人として、適切な対応が取れるよう準備を進めて参りたいと思います。

12) 自分自身 LGBTQ の方々に対し抵抗なく接する事が出来ると思っています。実際カミングアウトされた方が身近にはいませんが、カミングアウトされて見えない方が身近にいる可能性があると言う事を改めて認識できた事、言葉センスのブラッシュアップを行えるように自身も日々成長しないと、と感じました。まずは一番身近にいる子供との接し方を変えてみようとして強く感じました。弊社はこう言った働き動きがない為少しずつでも変えていけると良いと思います。ありがとうございました。

13) みんなが性自認の当事者であるという言葉が印象的でした。LGBTQ 以外にも様々な性的指向があり、必ずしも恋愛対象が性自認と結びつくものではないことが分かりました。人の数だけ個性があり、それぞれの個性に寄り添う社会的仕組みを構築していくことが大切であると感じました。また企業に置き換えた時に、配慮できていない部分や改善できる部分があると思ったので、他企業の取り組みを学んで、小さなことからでも取り入れていきたいと思いました。

以上